

分類構築の心理学と 系統推定の歴史学

オブジェクト多様性を体系化する精神について

ゲスト：三中信宏さん

(独立行政法人農業環境技術研究所／東京大学・院・農学生命科学研究科)

6, Mar 2013 (Wed)

17:00-18:30

クレイグスカフェ(理学部E館1階)

予約不要・参加費無料(ワンドリンクご注文ください)

ファシリテータ: 大場裕一(生命農学研究科)

どっぷりとベダントリー。これぞ科学サロンという雰囲気をお楽しみください。底知れぬ博覧強記ぶりに魅了される「隠れミナカファン」は、私も含めてアカデミックには意外と多いんです。(ファシリテータより)

存在物(オブジェクト)の多様性を研究対象とする体系学(systematics)は、生物はもとより、言語・写本・様式・文化などの構築物まで含む広範なオブジェクトに適用できる普遍性をもつ。体系化を実践するための思考法としては「分類」と「系統」の二つがありえる。前者の「分類」的思考はオブジェクト間の類似性にもとづくカテゴリー化による体系化を目指す。たとえば、生物分類学の中心問題のひとつである「種問題(the species problem)」は、いまや生物学の垣根を軽々と越えて、認知心理学から科学哲学まで含む広範な議論の場を形成している。一方、後者の「系統」的思考は、時空的に変遷するオブジェクトに関する歴史の推定を目標とする。データに基づく最も妥当な系統関係を推論する作業は「歴史とははたして科学でありえるのか」という大きな問題を浮上させる。オブジェクトの多様性を分類と系統の両面から理解しようとするこれまでの試みの中で、さまざまな分類チャートや系統ダイアグラムが用いられてきた。それらを図像学的に見直すことにより、一般体系学におけるグラフィック・ツール(チェーン、ツリー、ネットワーク)のもつ意義に光が当たる。これらのグラフィック・ツールは、進化するオブジェクトの系統関係を推定し、さらにその分類体系を構築するための指針を提示することができる。オブジェクト多様性とその変遷を研究対象とする諸科学は、歴史科学(William Whewellのいう「古因科学」あるいはAvezier Tuckerのいう「歴史叙述科学」としての共通点をもつだけでなく、データ可視化と情報グラフィックスの点でも相通じる要素を共有している。